



開館20周年記念

2010 夏季高岡万葉セミナー

大伴家持研究の最前線 I

家持研究は、今までに何を明らかにし、
これから何を明らかにしようとしているのか。

平成22年
期日 8月21日(土) 13:00~16:30
 22日(日) 9:30~15:00
会場 高岡市万葉歴史館 / 講義室

◆受講料：2日間 3,000円 (学生1,000円)
 ◆定員：先着120名

※原則として2日間の受講に限ります。
 ※周辺に食堂がありませんので、22日(日)は昼食をご持参いただくか、1週間前までにお申し込みください(1000円)。
 ※富山県民生涯学習カレッジ連携講座です。
 秋季高岡万葉セミナーとあわせて受講すると10単位交付。



第1講 大伴家持と藤原種継の暗殺事件
 —五百枝王の伊予配流と家持—
【講師】木本 好信 (甲子園短期大学学長)

第2講 大伴家持の発想と方法
 —中国文学の摂取をめぐって—
【講師】内田 賢徳 (京都大学大学院教授)



第3講 歌群から歌巻へ
 —大伴家持の編纂手法—
【講師】山崎 健司 (熊本県立大学教授)

第4講 歌人家持と官人家持
【講師】鉄野 昌弘 (東京女子大学教授)

第5講 『万葉集』のなかに編集された家持
【講師】神野志隆光 (明治大学大学院特任教授)

申し込み方法

講座名・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・22日(日)昼食の申し込みの有無を記載の上、ハガキ・電話・FAX・E-mailなどで下記にお申し込みください。高岡市万葉歴史館受付でも申し込みめます。受講料は、当日受付でお支払いください(おつりのないようご注意ください)。
 ※お知らせ頂いた個人情報を受講の通知・講座日程の変更通知に必要となります。これ以外の目的に使用する事はありません。

高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1-11-11
 TEL:0766-44-5511 FAX:0766-44-7335
 E-mail:manreki@office.city.takaoka.toyama.jp
 http://www.manreki.com



交通のご案内

- ・JR高岡駅より車で25分
- ・JR高岡駅正面口4番のりばよりバスで約25分乗車…伏木一宮下車…徒歩7分 (西まわり古府循環・東まわり古府循環・西まわり伏木循環行きなど)
- ・JR氷見線伏木駅より徒歩25分 ・能越自動車道高岡ICより車で約25分

2010 秋季高岡万葉セミナー 大伴家持研究の最前線 II

日時：平成22年11月21日(日) 会場：高岡市万葉歴史館 / 講義室 講師：廣川晶輝(甲南大学教授)・大濱真幸(関西大学教授)

◆第1日 8月21日(土) 開講式 13:10~13:20



第1講 13:20~14:50

大伴家持と藤原種継の暗殺事件 —五百枝王の伊予配流と家持—

【講師】木本 好信 (甲子園短期大学学長)

歌人としての大伴家持については膨大な研究の蓄積があるが、延暦四(785)年九月に起こった藤原種継暗殺事件に関わる家持の没去前後の政治的動向について検討したものはすくない。家持の死より二十余日後の事件ではあるが、はたして彼が『続日本紀』が記すように種継暗殺の首謀者であったのか、また五百枝王はなにゆえ縁坐し、伊予国への配流に処せられたのか。家持の首謀者説と五百枝王配流の理由について、桓武天皇の思惑とからめて自説を展開する。

第2講 15:00~16:30

大伴家持の発想と方法 —中国文学の摂取をめぐる—

【講師】内田 賢徳 (京都大学大学院教授)

万葉集における中国文学の摂取は、いくつかの層をなしている。大きくは、柿本人麻呂に見られる方法と、大伴家持に見られる方法としてよい。人麻呂のそれが、意味を表現するにあたって、倭語の歌を訓字、つまりは中国の文字でどのように表記するかという視点で捉えられるのに対して、家持のそれは、中国詩のもつ発想を歌の中にどのように取り入れるかということであった。六朝から初唐の詩の気分をいかに歌に表現するか、そこに開かれた独特の境位を位置づける。



◆第2日 8月22日(日)



第3講 9:30~11:00

歌群から歌巻へ —大伴家持の編纂手法—

【講師】山崎 健司 (熊本県立大学教授)

作歌当初の一次的な意味とは別に、集積された歌は、時を経て改めて読み直すことで別の意味を見出せる場合がある。越中時代以降の家持は、丹念に「歌稿」を保管し、さまざまなきっかけで読み直しを試みた。その成果は、日付順に歌が配列されている巻第十七以下の四巻の、歌群の統括の仕方に工夫を加えることによって示されている。歌群から歌巻を構成していく手法を具体的に示し、歌巻に込められたメッセージを読み解いてみたい。

第4講 11:10~12:40

歌人家持と官人家持

【講師】鉄野 昌弘 (東京女子大学教授)

大伴家持は、万葉集の代表的な歌人である。しかし言うまでもなく、家持が歌人であるのは、万葉集の世界の中だけのことである。現実世界では、家持は豪族の支配層の一員であり、律令官人であった。歌人家持は、その官人家持を、歌の上に表現する者であり、表現された者でもある。そして、表現された家持は、現実の家持とは、ずれを持っているだろう。そうした歌人家持と官人家持との関係を、越中守時代の歌を中心に考えてゆく。



第5講 13:30~15:00

『万葉集』のなかに編集された家持

【講師】神野志隆光 (明治大学大学院特任教授)

家持は『万葉集』の編纂者に擬せられている。しかし、まず、『万葉集』のなかに編集されているものとして見るべきではないか。そして、家持をそのように編集して成り立っている『万葉集』をどうとらえるかが問われるべきではないか。末四巻は「歌日記」とよばれたりするが、そうしたかたちで編集される家持をふくむ、『万葉集』の全体像について考えたい。

